新春に響く、文化の対話

令和7年11月18日ランチタイムコンサートの様子

小林市長
大変お忙しいなか、結城に来ていただきありがとうございます。「文化の薫るまち結城」をコンセプトにまちづくりを進めていますが、音楽文化については、東京室内管弦楽団の皆さんにご協力をいただきながら、音楽を通じて、まちのにぎわいや郷土愛を育んでいきたいという思いがあります。ぜひ、音楽とまちづくりについてアドバイスなどをいただければと思います。

中村さん
結城市とは、令和3年度に市民文化センターアクロス開館30周年記念として医療・介護従事者向けに実施した「名曲コンサート」をきっかけに、「ファミリーコンサート」や小中学校の「音楽鑑賞教室」や市役所を会場にした「ランチタイムコンサート」を行っています。

小林市長
「音楽鑑賞教室」を拝見し、本物の音楽を市民にも聴かせたいと思い、「ランチタイムコンサート」を提案させていただきました。
ちなみに市役所の庁舎でコンサートを行っている所はありますか。

中村さん
札幌市庁舎でロビーコンサートを行っているという話を聞いたことがありますが、私たちが自治体や関連団体の依頼で演奏に伺うのはショッピングモールなどが多いです。東京都は交響楽団があるので、都議会前に四重奏などの形式で演奏を行っているようです。「ランチタイムコンサート」は２回目の開催になりましたが、多くの方に足を運んでいただきました。演奏が進むにつれ、だんだん観客が増えてきました。音楽を楽しむ輪が徐々に広がっていく…このような形が一番よいですね。

小林市長
皆さんは色々な地域で演奏をされていらっしゃいますが、音楽で面白い取り組みをしているという場所などありますでしょうか。

河野さん
藤沢市民オペラ（神奈川県藤沢市）でしょうか。
1973年に藤沢市民会館開館5周年事業として、プロのソリストとアマチュアのオーケストラ・合唱団が共演する形式の日本初の市民オペラとして発足しています。私の母もオーケストラとして参加していました。市民の中から公募して選んで、市民の手作りで作っていくというのがすごかったですね。

小林市長
それはすごいですね。実はアクロスにもオーケストラが入るピットがあり、結城市民劇団の公演で初めて使用したと聞いています。結城では、市民オーケストラはないですが、合唱をやっている市民や吹奏楽団があるので、そんな風に盛り上がったらうれしいですね。

河野さん
今後、弦楽器人口が増えて市民オーケストラが生まれたら、結城で市民オペラもできるかもしれません。音楽鑑賞教室やランチタイムコンサートなどをきっかけに、そうした動きがが出てくるとよいですね。

小林市長
本市出身の音楽家として、ジャズピアニストの宮本貴奈さん、また、東京室内管弦楽団に加藤美菜子さん（ヴァイオリン）が所属されていますね。今後、子どもたちが成長をしていくなかで、人生の選択肢の一つに「音楽関係」が挙がるような風土を作りたいと考えています。

音楽鑑賞教室について

石川さん
地域によって文化格差が起きていると思います。結城市では音楽鑑賞教室を始めて3年目となりますが、鑑賞教室をやめる自治体がほとんどで始める自治体はなかなかありません。子どものうちにさまざまな物を見たり、聴いたり、触れたり、本物を知ることによって、色々な感性というのが育まれるのではないかと思います。

中村さん
私が教える中学生、高校生の生徒が修学旅行で京都に行くのですが、その時は京都の美しさがどこまで心に残っている分からない。だけど、私たちがこの年代になって行くとその良さが見えて感動する。これは幼いながらも「感動の芽」が心に根付いたからこそ覚える気持ちなのだと思うのです。コンサートや鑑賞教室も同じで、仮に眠ってしまったとしても細胞の中に体の中にしっかり根付いていく。あの時は何も思わなかったけれども、大人になって聴いてよかったなという感動を覚えるためには、やはり幼い時の記憶や感動の蓄積がすごく大事なのだと思います。

小林市長
私が初めて生のクラシックコンサートを聴いたのは18歳の時。田舎暮らしだったので、そういった機会があまりなく（笑）初めて聴いたとき、すごく感動した経験があります。こうした経験を小さな時から体験させてあげられたらいいなという思いがずっと頭にあって。子どもたちには色々な可能性があるわけですし、その可能性を大切にしたいなと思って、小中学校の音楽鑑賞教室を始めた経緯があります。

中村さん
そうでしたか。事業が始まったきっかけを知れてうれしいです。教育という観点でいくと、子どもたちの想像力を育むのに音楽はよいと思います。音楽は目には見えません。楽しい春の雰囲気や恋人に想いを告げられるなど作曲家が伝えたいものを私たちは演奏で届けますが、その情景は音からその人自身が想像することになります。最初から想像することは難しいので、音楽鑑賞教室などでは曲の解説をしたり、詩を読んだりしています。これにより、子どもたちの中で世界を想像する下地ができて、その後に音楽を聴いてもらうことで、音楽が表現している景色が見えるのではないかと思います。私たちも演奏するときにはイメージがないとできないので、そのイメージを子どもたちにも持たせてあげるような演奏会を目指しています。

音楽が地域を繋ぐ ― 部活動の地域移行 ―

小林市長
近年、部活動の地域移行という話が出ていますが、音楽家の皆さんの周りでもそのような話は話題に挙がりますか。

根来さん
少子化と教師の労働条件改善などの要因から、部活動が統合されて、吹奏楽部や合唱団が全国的に少なくなってきていると伺っています。大都市であれば学校単位が無理でも区や市単位での活動が可能ですが、地方都市だとそれも叶わず、大人が参加している市民吹奏楽団へ子どもたちが参加するような形も出てきているようです。顧問の先生が指導をするという形ではないため、私たちのような専門家が教える機会が今後増えてくる可能性があると思います。

小林市長
市民吹奏楽団と一緒に活動するといった事例もあるのですね。今後、音楽が好きで吹奏楽をやりたい、有名な高校で活動をしたいという子どもたちの夢を繋げるためにも、吹奏楽をはじめとする部活動の地域移行の仕組みを作っていけたらと考えています。

河野さん
現在、茨城大学の管弦楽団サークルを教えているのですが、水戸では小学生が中心のジュニアオーケストラがあり、大学生も手伝って、小学生の面倒を見ながら一緒に演奏しています。サークルに入って大学で始めたという方も結構いるので、初心者の方も多いのですが、小学生に教えたり、一緒になって楽しそうに演奏したりしています。

【音楽鑑賞教室】

【ファミリーコンサート】